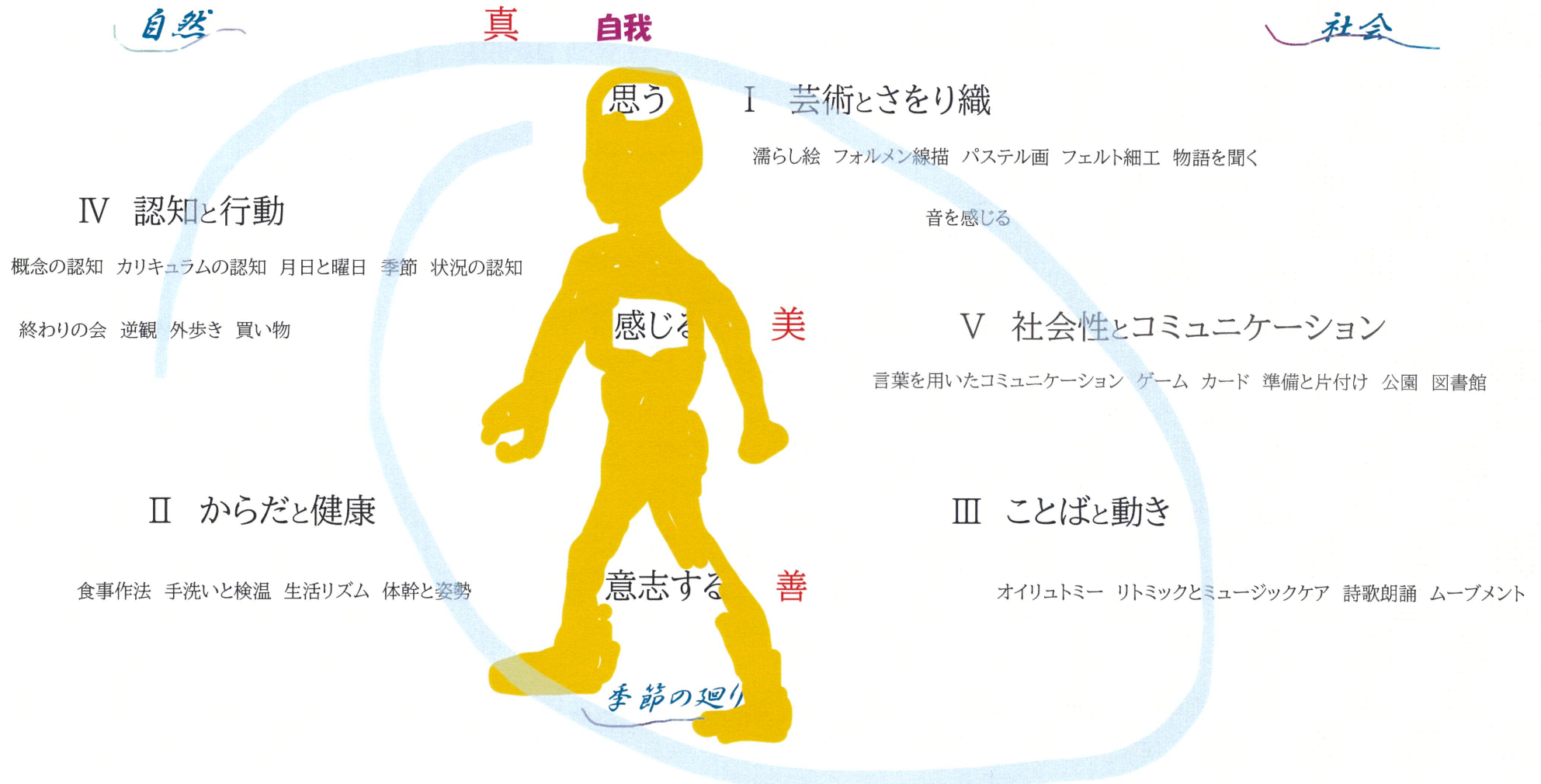


療育すぱーすノアの 支援プログラム

「療育すぱーすノア」では、子どもの療育の中心に、自我の発達を置いています。からだをつくり、いのちの力をゆきわたらせ、感情を豊かにする、その中核にある自我の発達をもっとも尊重しています。とりわけ、思春期前後の繊細な時期には、子どもは美しいものに触れ、美しいものに感動して、魂を生長させていきます。絵画、音楽、詩歌などの芸術や、人と人との触れ合いの中に流れる美しいところと響きあって、子どもの魂は豊かに輝きます。ノアでは、子どもが、思い、考え、感じ、意志するところの働きを中心軸としてその周りに、幾つかの視点を置きます。芸術・からだ・ことば・認知行動・コミュニケーションなどの観点は、子ども家庭庁の5つの領域と関連し合いながら、子どもの発達・成長を支えて行く放課後等デイサービスの実践的なアспектです。

*五領域支援プログラム(ダイジェスト版)に概説しました。より詳しくは、「療育すぱーすノアの支援プログラム」本稿をお読み下さい。



事業所名

療育すぱーすノア 児童発達支援プログラム

作成日 2024年10月1日

法人（事業所）理念		子どもは、人と人との間で、人間として生長して行くという信念のもと、その子にあった支援環境を探り、一人一人の中にかけがえのない光を見出していく。		
支援方針		グループの中で育ち合う個性ある人間を育成する方途を、スタッフ全員で追究する。言語朗読、絵画芸術、リトミック、ミュージックケア、さをり織などを通して。		
営業時間		10時30分から 12時00分まで	送迎実施の有無	なし
		支援内容		
本人支援	健康・生活	来所時の手洗い、検温実施をはじめ、微細な変化にも気を付けて、子どもの全体的な成長を見て行きます。保護者とのやり取りを通して、食事、睡眠、排泄、着替えなどの基本的な生活習慣を、身につけられるよういっしょに考えていきます。		
	運動・感覚	自分の身体を自在に動かし、体幹を確立しつつ、粗大・微細の運動を行えるように、ミュージックケア・リトミックを、音に合わせて行なって行きます。視覚、聴覚、触覚に働きかける感覚（統合）訓練を行って行きます。		
	認知・行動	自分がある、「いま、ここ」を人の動きと言葉と感覚器官を通してよくわかるようになりたい。そのときにふさわしい行動をとれるように経験を積んで行く。ミュージックケアなどを通して、人と合わせて動けるようになっていく。		
	言語 コミュニケーション	分かりやすい言葉を用いて、必要な会話を重ねて行く。ときに、絵カード、物語などを使って、気持ちのやり取りをする。		
	人間関係社会性	人や場所に慣れるにしたがって、大人や仲間たちとやり取りをして行く。自分なりの方法で思いを伝え、すこしづつ言葉を増やし、人間関係を作って行く。そための自然な援助を行っていく。		
家族支援		セッションの後には、悩んでおられる問題などをお聞きし、いっしょに考えるご相談の時間を持ち、子どもの成長の為にできることを考えて行きます。		
地域支援・地域連携		保育園、幼稚園、相談支援専門員など関係機関との連携を持ち、子供の将来を考えて、情報や取り組み方を保護者にフィードバックして行く。		
主な行事等		折に触れセッションの中に、季節ごとの行事を組み込んで行きます。		

5 領域支援プログラム（ダイジェスト版1）

ー 療育すぺーすノア

子どもは、見て聴いて、感じ、意欲し、思い、行動して、育って行きます。療育すぺーすノアでは、この子どもの発達して行く自我を中心の柱として、その発達に関わる5つの視点をその柱の周りに置いています。5つの視点は、①芸術 ②からだ ③ことばと運動 ④認知と行動 ⑤社会的コミュニケーションです。これらはすべて成長していく子どもの心と体に深く関わっていくものです。

真ん中にある子どもの自我は、時々刻々に成長を遂げて行きますが、身体の発達とともに、こころは、意志、感情、思考という要素が絡み合って発達して行きます。とくに思春期を迎えようとする子どもは、美しいものと触れ合うことがとても大切です。絵画や造形、織物、音楽、歌唱、詩歌、物語の中にひそむ美しいものと響きあって、その子の魂は豊かに育まれていきます。それは、人と人との触れ合いの中に流れる美しいこころの交流についても同様です。本質的なものは、5つの領域をはじめ、すべての領域を通じて流れて行きます。

たとえば、濡らし絵を例にとりましょう。次のような様々な観察が出来ます。水につけた紙をトレイからあげて画板におくとき、滴り落ちる水滴をいっしょに眺めながら、紙を持つ先生と画板を持つ生徒が呼吸を合わせます。そのとき、手に持つ画板を濡れ紙にあわせる〔運動・感覚〕〔認知・行動〕、先生と生徒との信頼関係〔人間関係・社会性〕、「もう少し真ん中に」などの〔言語・コミュニケーション〕が関わって来ます。画板を水平に保持できるかは〔健康・生活〕が基礎になってきます。

さまざまな営みや芸術活動の、どこが5つの領域のどれにあたるかを分析することは副次的なものであり、いちばん大事なことは、子どもの心にダイレクトに働きかける私たちの思いであるに違いありません。

① 芸術・さをり織・・・運動・感覚と認知・行動 に関連

濡らし絵の技法を用いた水彩は、濡れた紙に色が溶け込んで交じり合っていくあり様を観察することを通して、世界は混じりあってできているという風景を思わせます（感覚・認知）。回を重ねることによって、筆の運び方、絵具の濃淡のつけ方、視線の角度、身体の使い方など微妙な力加減を身につけて行きます（身体・運動）

フォルメン線描は、画用紙という2次元画面に、世界の成り立ちの1次元の線描を、エッセンスを用いて表現します。パステル画、水彩絵手紙、水墨画、フェルト細工、粘土なども、それぞれの目的と手法をもって、美意識と感覚、認知、行動の磨きに役立たせるものです。

さをり織は、指先で糸に触れ、手足を動かして、前後左右上下の三次元の空間を身体で感じながら織り進めて行く色彩芸術でもあります（運動・感覚と認知・行動）。

パステル画や**フェルト細工**をとおして、子どもたちは美しい繊細さを体感して行きます。

② からだと健康

からだと健康こそ、すべての営みの根本です。療育の限られた時間内で観察される子どもの行動の背後に、スタッフたちは**日常生活習慣**を垣間見ます。気になることについては、懇談の機会にお話しし、ご家庭に連絡する機会を持ったりして、いっしょに考えて行きます。身だしなみ、生活マナー、食事マナー、手洗い、片付け、持ち物の管理などは、これからの全生活につながって行くものとして、ていねいにサポートして行きます。

③ ことばと運動

からだを動かすことと言葉を発することとはつながりあっています。**オイリュトミー**では母音を発声しながら、身体を動かし、言葉と動きを結びつけます。**詩歌の朗読**では詩や俳句を皆といっしょに朗読し、身振り手振りとともに、感じ取り、表現することで理解につなげて行きます。**ミュージックケア**では、前に立つ教師の動きを鏡に映った姿のように、自分の動作に写し取り（ミラリング）、やがて音楽に合わせて予期した動きが出来るようになります。鳴子、鈴、パチなどを自分でもってリズムを取ることは、聴く、判断することから一歩進んで、表現する自由を持つ**リトミック**へと進んで行きます。**床フォルメン**はフォルメン線描のパターンを、床にロープを固定し、その上を朗唱しながら歩く、動くフォルメン線描です。上記のエクササイズは、総じて粗大運動と微細運動の橋渡しをして、**感覚統合**の力をつけて行きます。

ことばを発しない子、発しにくい子も聴き取ってわかっています。身体言語、絵カードなど援用し、内なる言葉、心の言葉をわかることに努めて行きます。発声の基本は、毎回行うオイリュトミー、詩歌、歌などを繰り返して。

④ 認知と行動

人の行動は認知に基づき、認知と行動は**車の両輪**のように、互いに関連しあって転回して行きます。この認知と行動が偏りすぎたり不十分なとき、私たちは工夫して矯正を働きかけます。SST はそのひとつです。**はじめの会**では、月日、曜日や、その日のカリキュラムを黒板などを用いて全員で確認し、終わりの会では、その日に行ったことを時間系列をさかのぼってみんなで確かめます（**逆観**）。

⑤ 社会的コミュニケーション

言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを併せて考えなければなりません。言語を用いたコミュニケーションでは、言葉のやり取りを必要な範囲でサポートします。言葉を用いるに充分でない子については、言葉を導いたり、ゆっくりとはっきり発声する練習を、機会をとらえて行います。人の心がわかり、自分を他者視点から見つめることが出来るようになるのは、簡単ではありません。終わりの会での**逆観**は、逆に振り返ることによって意識が掻き立てられ、行為している自分を見つめる他者の眼差しを少しずつ獲得することに資するものです。固有の空間と静けさを必要とする人は、随時イヤーマフを用いていただきます。ついたてを立てて落ち着く時間を持つこともあります。

子どもたちの**発達保障**には、充分な時間をかけて進んで行きたいと思っています。